

平成 28 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 29 年 2 月 7 日

学 長 殿

所属部局・職名 人間発達文化学類・教育職員

申 請 者 名 高橋 由貴

助成事業の区分 (該当するものに○印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・ 学会等運営 ・学会参加) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・その他の特別事業)
事 業 名	日本比較文学会 2016 年度東北大会
事業実施期間	平成 28 年 11 月 26 日
成 果 の 概 要	<p>日本比較文学会の本年度東北大会を福島大学で開催した。比較文学の専門教員の欠員が長らく続く本学で、日本文学と海外文学とを同時に視野に収める比較文学関連の学会を招聘することができたことは喜ばしいことである。当日は、福島県内の会員のみならず本学および近隣大学の教員（非常勤を含む）や文学に関心がある学生の参加も多数見受けられ、有意義な大会開催であった。</p> <p>前半は、山形大学院生の三澤奈津美氏による「芥川龍之介におけるエドガー・アラン・ポー —講演「ポオの一面」を中心に—」と、山形大学教員の金子淳氏による「司馬遼太郎とスタインベック」と題した2本の会員による意欲的な研究発表が行われた。</p> <p>後半は「テキストとイメージの近代：エンブレム文化の変容と寓意表象の多様性をめぐって—シェイクスピア没後400年および漱石没後100年記念ワークショップ—」と題したワークショップを開催した。会員外から山本真司（天理大学）と植月恵一郎氏（日本大学）という2人のゲストと、会員から森田直子（東北大）が登壇し、古河美喜子氏（日大工学部）にコーディネーターと司会をつとめた。比較文学的・図像文化学的観点からルネサンス以後におけるエンブレム文化の変容と寓意表象の多様性に注目し、図像文化への参照が多く見られる作家であるシェイクスピアと漱石を中心に、「テキストとイメージ」の関係が初期近代から近代にかけてどのように変化し、影響を与えてきたかについて、テプフェールなどの時代風刺的側面交えながら議論が行われた。登壇する講師相互の意見交換、それに続く会場と質疑応答では、広範なトピックに渡り質疑応答がなされた。</p> <p>以上、本学会開催は、このような充実した会の内容に加え、研究者であるなしを問わない濃密で忌憚ない学术交流の貴重な機会となった。</p>